

## H27水産土木【選択科目Ⅱ】問題

Ⅱ－2－1 水産基盤施設ストックマネジメントを担当者として進めるにあたって・・・記述せよ。

(回答：水産基盤施設ストックマネジメントのためのガイドライン参照)

### 1、業務にあたって調査・検討すべき事項

#### 1) 施設の現況把握

現存データとしての漁港等の台帳、施設の補修・改良履歴、整備時の設計条件（安定計算書）や工事竣工検査結果等の関係資料を収集・整理し、対象施設の現況を把握する。

#### 2) 保全方針の検討

機能保全の目的、意義、管理方針を総括的に取りまとめる。具体的には、①投資面からは、LCCの低減と機能保全対策コストの平準化を通じた施設の長寿命化、②管理面からは、漁港等の概要、施設の現況、圏域計画や漁港漁場長期計画の動向を踏まえた機能保全レベルの設定、③保全レベルの設定として、対象とする漁港の役割、施設の重要度に応じ施設毎に設定する、などの検討が挙げられる。

### 2、業務を進める手順

水産基盤施設ストックマネジメント実施手順として、①漁港等の概要整理、②機能保全方針の検討、③施設の現況把握、④機能診断の実施、⑤機能保全対策の検討、という一連の検討過程を経て、⑥機能保全計画の策定を行い、機能保全計画に定めた⑦日常管理計画に基づく点検を行うと共に、計画的に⑧機能保全対策を実施する。

### 3、業務を進める際に留意すべき事項

#### 1) 関係機関の連携・協力

ストックマネジメントに効率的に取り組むために、「日常管理を行っている管理者等」と「施設の利用者」が連携・協力して取り組むことが必要である。その際、管理者等と施設の利用者がストックマネジメントについての基本的な考え方や対策の実施方法を共有することに留意すべきである。

## 2) 戦略的な維持管理

水産基盤施設の管理者等は、原則、供用期間中に施設の性能が要求性能を下回ることがないように適切に施設を維持管理しなければならない。

また、これまでの「事後保全」中心の維持管理から「予防保全」を積極的に取り入れた戦略的な維持管理への転換に留意すべきである。

## 3) L C C 縮減

機能診断に基づく計画的な機能保全対策を実施することによって、低下した性能の回復に努め、所要の性能を維持しながら、施設の有効活用や長寿命化を図ることで、L C C を縮減に留意する。

## 4) 機能保全対策コストの平準化

ストックマネジメントを進める際には、個別施設の L C C のみならず、管理施設全体（例えば、漁港単位、圏域単位、管理漁港全体）の L C C を把握することにより、年度ごとの機能保全対策に要する予算に応じて機能保全対策コストを平準化することに留意すべきである。以上